

プラン8 川崎の魅力を育て発信する取組

アクションプログラム

音楽のまち・かわさきの推進

【主な実施結果】

「音楽のまち・かわさき」推進協議会の活動支援

- ・「音楽のまち・かわさき」の定着に向け、活動の中心的役割を果たす推進協議会の活動を支援しました。

ミューザ川崎シンフォニーホールを拠点とする「音楽のまち・かわさき」の推進

- ・「アジア交流音楽祭」や「フェスタ サマーミューザKAWASAKI」等を実施し、姉妹・友好都市との親善公演等を開催したほか、国内外の一流オーケストラ公演の開催などにより世界水準の良質な音楽を提供しました。

【課題と第2期実行計画における取組】

「音楽のまち・かわさきの推進」は、おおむね順調に実施されましたが、引き続き「音楽のまち・かわさき推進協議会」を支援するとともに、ミューザ川崎シンフォニーホールの国際的な知名度の向上に向け、魅力的な自主事業や海外オーケストラ等の公演を開催します。

文化芸術の振興

【主な実施結果】

文化芸術振興計画の策定と文化芸術の振興

- ・文化芸術振興会議から文化芸術振興計画に関する答申を受け、2008年3月に策定を行いました。
- ・新たな地域文化芸術活動の場として、2006年10月に川崎駅西口に「ラゾーナ川崎プラザソル」を、2007年10月に新百合ヶ丘駅北口に「川崎市アートセンター」を開館しました。

「しんゆり・芸術のまち」の推進

- ・「しんゆり・芸術のまち」PR委員会が行ったホームページの運営や学生によるPR活動などの情報発信を支援したほか、PR委員会活動の承継組織の体制整備を支援しました。
- ・麻生区中学校合同音楽会やランチタイムネットワークコンサートなどの芸術関連事業について、地域メディアの紙面買い取りを行い、「芸術のまちづくり」への取組を広く区内外にアピールしました。
- ・新百合ヶ丘駅周辺に「しんゆり・芸術のまち」にふさわしい総合的な案内板（サイン）を設置しました。

藤子・F・不二雄ミュージアムの整備検討

- ・2006年2月に、（仮称）藤子・F・不二雄ミュージアムの整備に向けた「基本合意」を藤子プロ及び川崎市で締結、2007年1月に名称を（仮称）藤子・F・不二雄アートワークスから（仮称）藤子・F・不二雄ミュージアムに変更、3月に立地場所の公表を行いました。
- ・2011年秋の開館に向けたPRとして、2006年度には川崎市民ミュージアムにおける原画展、2007年度には、第30回かわさき市民祭りや青少年科学館と連携したイベントを開催しました。

【課題と第2期実行計画における取組】

「文化芸術の振興」は文化芸術振興計画に基づき、取組を進めていきます。

「ラゾーナ川崎プラザソル」については、さらに施設の周知と効率的な運営を図ります。また、文化芸術振興の拠点として開館した「川崎市アートセンター」を活用し、文化芸術のまちづくりを進めていきます。「しんゆり・芸術のまち」の推進については、文化芸術の振興に向けておおむね順調に実施されており、引き続き現在の取組を継続していきます。藤子・F・不二雄ミュージアムの整備については、2011年秋の開館に向けた取組を進めます。

アクションプログラム

観光・集客施策の推進

【主な実施結果】

観光振興プラン（２００４年度策定）に基づく観光振興事業の推進

- ・観光協会と連携し地下街アゼリアに観光案内所、ＪＲ川崎駅や登戸行政サービスコーナーに観光情報端末機を設置・運営したほか、観光コースをホームページにて情報提供しました。また、八都県市で広域観光プロジェクト「２１世紀の船出プロジェクト」を実施したほか、三県市で東アジアからの招へい事業の実施や、外国語観光パンフを作成・配布しました。
- ・産業観光施設資源調査を行い、各施設のデータをまとめた修学旅行誘致用のプロモーションツールを作成して旅行会社等に誘致活動を行いました。また、産業観光振興協議会を通じ、読本を作成・発行し、産業観光検定を実施しました。

【課題と第２期実行計画における取組】

「観光・集客施策の推進」は、おおむね順調に実施されており、引き続き民間主導による観光振興事業の支援について強化を図ります。

シティセールスの推進

【主な実施結果】

都市イメージの向上を図るための戦略的な情報の発信

- ・川崎の魅力を新聞、地域情報誌、市ホームページ等の媒体により発信することで、市内・市外に情報を発信しました。

イメージアップ事業の展開

- ・「イメージアップ事業認定制度」を創設し、情報発信、魅力づくり、イベントに関する取組など３年間で２３件のイメージアップ事業を認定しました。
- ・学生を対象としたイメージアップＣＭコンテストを実施しました。

【課題と第２期実行計画における取組】

「シティセールスの推進」は、おおむね順調に実施されましたが、引き続き、さまざまな媒体やイメージアップ事業で認定された事業等を活用して川崎の魅力を市内・市外に情報発信等行い、都市イメージの向上を図ります。

ホームタウンスポーツの振興

【主な実施結果】

市民・地域・行政が一体となったホームタウンスポーツ活動の支援体制づくり

各競技チームの地域密着化の促進

プロスポーツクラブ等との連携による国際的、全国的に活躍する選手の育成

- ・市民・地域・行政が一体となってホームタウンスポーツ活動を支援し、各競技チームの地域密着化を促進するため、「ホームタウンスポーツ推進パートナー」の追加認定を行いました。
- また、「ホームタウンスポーツ推進パートナー」に認定されたプロスポーツクラブ等との連携により、「小学生ふれあいスポーツ教室」や「ふれあいトークショー」等を開催し、ホームタウンスポーツの振興及び川崎のイメージアップを図るとともに、将来、国際的、全国的に活躍する選手が育成されるよう努めました。

２００７年７月のアメリカンフットボールワールドカップの開催に向けた支援の展開

- ・１５０を超える様々な団体で構成される支援委員会を設立し、情報発信、イベントの開催などを通じて、全市を挙げて大会成功に向けた支援を展開しました。

アクションプログラム

【課題と第2期実行計画における取組】

「ホームタウンスポーツの振興」は、おおむね順調に実施されましたが、引き続きスポーツによる川崎のアピール・魅力づくりに協働で取り組むため、「ホームタウンスポーツ推進パートナー」と連携した「ふれあいスポーツ教室」等の開催や、各種イベント事業への参加を推進します。

多摩川の魅力を育てる取組

【主な実施結果】

多摩川に関連する施策の総合的展開に向けた計画の策定

- ・多摩川に関連する施策を総合的に展開するための「川崎市多摩川プラン」を策定し、重点エリアにおける再整備を進めたほか、プランの進行管理と評価等を行うための組織づくりを行いました。

多摩川と周辺市街地を含めた景観形成の推進

- ・多摩川と周辺市街地を含めた景観施策を推進するための「多摩川景観形成ガイドライン」を策定しました。

市民交流や活動団体、流域自治体などの連携による広域的ネットワークの形成

- ・「多摩川流域協議会」や「流域懇談会運営委員会」、流域の市民による多摩川流域セミナー、源流イベントなどへの参加を通じて情報交換・連携を図りました。

桜並木の復活に向けた取組

- ・等々力地区において桜の植樹を実施しました。また、幸区戸手4丁目のスーパー堤防事業実施箇所については、民間事業者による開発の中で桜の植樹方針が決定され、殿町地区スーパー堤防事業に合わせた並木の整備については、関係団体との意見交換を進めました。さらに、幸区船着場周辺地区では桜などの植栽工事を含む公園工事を実施しました。

市民活動拠点の整備及び活動支援

- ・大師河原水防センターの整備については、工事施工中予期せぬ障害物が発見されたことにより工法の変更を行ったため完成が遅れましたが、2007年8月31日に完成し、運営委員会による開館を2008年1月から行いました。また、管理協定及び覚書の早期締結に向け、京浜河川事務所及び市関係部署と協議・調整を図りました。

スーパー堤防事業（国事業）と連携した市街地から多摩川へのアクセス改善

- ・多摩川へのアクセス改善については、登戸駅南北自由通路から多摩川側への立体横断施設を整備しました。また、京浜河川事務所をはじめとする関係機関と協議し、JR登戸駅北口を多摩川口としたほか、幸区戸手4丁目地区における多摩川沿いの散策路（河川管理用通路）の開通や御幸公園におけるスーパー堤防事業について工程などの調整を図りました。

運動施設・駐車場・トイレ・水飲み場・サイクリングロードなどの整備や維持管理による利用環境向上

- ・サイクリング・マラソンコースなどの運動施設等において、草刈、剪定等を適切に行うことにより、管理水準の向上を図りました。また、アメニティ施設の充実を図るため、簡易水洗トイレを設置しました。

【課題と第2期実行計画における取組】

「多摩川の魅力を育てる取組」は、おおむね順調に実施されましたが、桜並木や多摩川へのアクセス改善、市民活動の支援等については、引き続き、国や関係機関と協議等を行い、事業を推進します。

施 策 計 画

事業名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
アクションプログラム：音楽のまち・かわさきの推進					
○ 音楽のまちづくりの推進 市民・事業者を主体とした「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心として、民間の活力を活用した音楽のまちづくりを推進します。	推進協議会の設立	支 援 音楽イベントの支援	→	推進協議会のNPO化	→
実施結果	進捗状況区分 6	事業推進の組織体制については、推進協議会のNPO法人化に限らず幅広い参加による効果的な推進を図ることとした。「交流の響き」「アジア交流音楽祭」等の音楽のまちづくりの柱となるイベントを支援するとともに、音楽公演を支える人材を育成する「イベント塾」「イベント制作ラボ」の実施を支援し、人材育成の基盤づくりを行いました。また、推進協議会のホームページのリニューアルやマスコットキャラクター制作等による情報発信を充実しました。さらに、音楽のまちづくりを意識した各局・区の事業の取組を推進するため、「音楽のまち・かわさき」推進委員会等を通じて庁内調整を図りました。 [変更後の目標] 2007年度 推進協議会への幅広い参加による効果的な推進・音楽イベントの支援			
○ 川崎シンフォニーホールの運営 「音楽のまち・かわさき」の中核施設として市民に良質な音楽を提供するとともに、国際的な音楽ホールに向けた取組を進めます。	ホール運営	ホール稼働率向上に向けた取組	→		
実施結果	進捗状況区分 1	コンサートチケットの販売カウンターの設置や販売時間の延長、「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI」をはじめ魅力ある公演の開催などにより、ホールの稼働率は90%台を維持し、年間入場者数はほぼ20万人に達しました。			
○ 身近な音楽文化の振興 市内の身近な場所での音楽の提供と交流を行い、「音楽のまち・かわさき」の具現化を図ります。	(会場での交流) 延べ 5,000人	音楽の提供・交流事業の推進	フランチャイズ オーケストラ市内 巡回公演等	→	
実施結果	進捗状況区分 1	2005年度にはウーロンゴン市と親善公演、2006年度には富川市、2007年度にはリエカ市及びウーロンゴン市と姉妹・友好都市提携記念公演を実施しました。また、東京交響楽団の市内巡回公演も定着し、さまざまな場所で市民に音楽を提供することができました。			
○ 子どもの音楽活動の推進 子どもの音楽活動の推進をめざして、音楽の祭典、オーケストラ鑑賞、行進曲かわさきの制作、地域の音楽家との交流などを推進します。	(地域の音楽家との交流など地域に根ざした音楽活動実施校数)	10校	各区2校 (小学校1、中学校1校程度)	前年と同規模の校数で毎年実施校を選定	-----→
実施結果	進捗状況区分 1	「地域に開かれた子どもの音楽活動」を2005年度に10校、2006年度に30校、2007年度に31校においてそれぞれ実施しました。また、「子どものためのオーケストラ鑑賞」については、ミュージア川崎シンフォニーホールで東京交響楽団の演奏による開催で児童生徒が鑑賞し、「子どもの音楽の祭典」についてはミュージア川崎シンフォニーホールで開催しました。			
アクションプログラム：文化芸術の振興					
○ 文化行政の推進 新たな文化芸術振興計画を策定し、市民の文化芸術活動の振興と育成を図ります。	文化芸術振興 条例の制定	文化芸術振興計 画の検討	文化芸術振興計 画の策定	→	振興計画に基づく 文化行政の推進
実施結果	進捗状況区分 1	文化芸術振興計画の策定に向けて、文化芸術振興会議からの答申が報告され、庁内の調整を行いながら2008年3月に振興計画の策定を行いました。また、市民の参加による「かわさき市美術展」「かわさき市民第九コンサート」等を実施するとともに、文化等に功労のあった個人・団体に文化賞等を授与しました。			

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ アートセンターの整備 万福寺土地区画整理事業と連携してアートセンターの整備を推進するとともに、昭和音楽大学の進出や活発な市民活動との協働の取組により文化・芸術のまちづくりを推進します。	アートセンター基本計画策定	基本・実施設計	建設工事	開 館	
実施結果 進捗状況区分 6		2007年10月にアートセンターを開設し、オープニングイベントを実施しました。芸術文化の創造発信及び交流の促進により市民の芸術文化の発展が図られています。また、新百合21ホールの文化芸術分野の活用を図るため、川崎市文化財団グループによる管理運営を開始しました。 [変更後の目標] 2007年度 アートセンター開館・新百合21ホールの川崎市文化財団グループによる管理運営の開始			
○ 川崎駅西口地区文化施設の整備 音楽をはじめとする様々なジャンルの芸術活動に使用可能な多目的ホールを整備し、市民の文化芸術の振興を図ります。	ホール整備方針の検討	実施設計	内装・設備 工事着手 工事完了・開館		
実施結果 進捗状況区分 1		2006年10月に多目的ホールとして「ラゾーナ川崎プラザソル」が開館し、オープニングイベントを実施しました。11月から一般利用も開始し、さまざまなジャンルにわたり利用が行われ、川崎からの話題性のある文化発信が行われています。			
○ 地域文化のまちづくりの推進 地域における文化芸術活動を支援し、市民同士の連帯を育み、豊かなまちづくりを推進します。	芸術のまち構想の推進（麻生区）	市民主体の文化芸術活動の支援			
実施結果 進捗状況区分 1		市民主体の文化芸術活動として「かわさき市民祭り」「KAWASAKIしんゆり映画祭」等を実施し、また、「かわさきかるた原画展」の開催を通じて地域への理解と愛着を深めることができました。			
○ 「しんゆり・芸術のまち」の推進 新百合ヶ丘駅周辺地区を中心に、芸術を通じた魅力と活力のあるまちづくりを推進します。				しんゆり・芸術のまちPR委員会の活動支援 サイン設置 情報発信	しんゆり・芸術のまちづくりフォーラムの活動支援
実施結果 進捗状況区分 1		「しんゆり・芸術のまち」PR委員会が行ったホームページの運営や学生によるPR活動などの情報発信を支援したほか、PR委員会活動の承継組織の体制整備を支援しました。なお、「しんゆり・芸術のまち」PR委員会は2007年度をもって解散し、その成果を発展させていくために2007年度末にしんゆり・芸術のまちづくりフォーラムが設立されました。 また、麻生区中学校合同音楽会やランチタイムネットワークコンサートなどの芸術関連事業について、地域メディアの紙面買い取りを行い、「芸術のまちづくり」への取組を広く内外にアピールしました。 新百合ヶ丘駅周辺に、「しんゆり・芸術のまち」にふさわしい総合的な案内板（サイン）を設置しました。			

※進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。

施 策 計 画

事業名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ 藤子・F・不二雄ミュージアムの整備検討 藤子氏の作品の有効な活用を図るため、藤子・F・不二雄ミュージアムの開館をめざし、調査・検討を進めます。	藤子氏の作品の保存・活用について検討	調査・検討			調査・検討結果に基づく取組推進
実施結果	進捗状況区分 6	本計画は2006年2月に、(仮称)藤子・F・不二雄ミュージアムの整備に向けた「基本合意」を藤子プロ及び川崎市で締結し、事業内容が具体化したため、2006年度から重点戦略プランとして進捗状況を把握することとしたものです。2007年1月から名称を(仮称)藤子・F・不二雄ミュージアムに変更し、3月に立地場所の公表を行いました。 2011年秋の開館に向けたPRとして、2006年度は川崎市民ミュージアムにおける原画展の開催、2007年度には、かわさき市民祭り、青少年科学館等と連携したイベント等を開催しました。 [変更後の目標] 2006年度 候補地選定、イベント開催 / 2007年度 基本計画策定への参画			
アクションプログラム：観光・集客施策の推進					
○ 新たな観光の振興 地域の魅力を活かすことにより、観光地としての川崎をアピールし、多様な観光資源の創出を図り、多くの人が集まり交流できるまちづくりを進めます。	観光振興プラン策定	市民・民間主導の観光振興事業への支援 連絡会議の発足			地域の魅力の発信による観光振興 修学旅行等グループ旅行の誘致促進
実施結果	進捗状況区分 1	国が進める「ピジット・ジャパン・キャンペーン事業」として神奈川県、横浜市と共同で、重点市場となる東アジアから旅行代理店やメディアを招き、取材ツアーを実施しました。また、八都県市観光プロジェクト「21世紀の船出プロジェクト」を実施し、東京湾運航実験やルート開発を行いました。 産業観光事業を推進するため、産学官民による「産業観光振興協議会」を発足しました。 かわさき名産品の認定を実施し、銘菓・食品・民芸品/工芸品/日用品等の3種類を認定し、観光パンフや生活ガイドに載せる等市内外に広く広報しました。また、地下街アゼリア内観光案内所や、川崎・登戸の観光情報端末機の設置、観光ホームページでのコース提供支援、外国語観光パンフの作成等多様な手法で観光情報を提供しました。			
○ 産業観光の推進 市内企業と連携して、産業を核とした新たな観光資源を育成します。	(産業を核とした観光資源の創出) 産業観光資源調査		モデルルート開発		地域資源を活かした産業観光の振興
実施結果	進捗状況区分 6	川崎商工会議所、関係事業者、学識経験者等による「川崎産業観光振興協議会」を設立し、産業を核とした観光資源の創出のため、産業観光施設資源調査を行い、各施設のデータをまとめた教育旅行誘致用のプロモーションツールを2006年2月に作成し、2007年3月末に産業観光施設を追加したプロモーションツールを増刷しました。 また、モデルルートの開発、東北地方を中心とした修学旅行の誘致活動、産業観光シンポジウム、ホームページの開設、受入企業・協議会会員企業の拡大等に努めるとともに、八都県市で実施している「21世紀の船出プロジェクト」や神奈川県で実施している「京浜臨海部産業観光研究会」と連携した事業に取り組みました。 なお、2007年度において、当初の計画に加え、「川崎産業観光読本」の作成と「川崎産業観光検定」の実施が川崎産業観光振興協議会で決定されたため、2007年11月末に「川崎産業観光読本」を発行し、2008年3月に「川崎産業観光検定」を実施しました。 [変更後の目標] 2007年度 モデルルート開発、産業観光読本の作成と検定試験の実施			
アクションプログラム：シティセールスの推進					
○ シティセールスの推進 川崎の多彩な魅力を各種広報媒体を活用して戦略的に広報するとともに、市民や事業者と連携し、テレビや情報誌など民間を活用した情報発信に向けて働きかけます。	シティセールス戦略プランの策定 戦略的な情報発信	イメージアップ事業認定制度の創設 各種メディアを活用した情報発信	イメージアップ事業の推進		
実施結果	進捗状況区分 1	日刊紙、地域情報誌等を活用したイメージアップ広告の掲載及び中央メディア等を中心にメディアリレーションを積極的に展開し、パブリシティ活動により費用対効果の高い情報発信を行いました。イメージアップ事業認定制度を実施し、3年間で23件のイメージアップ事業を認定しました。また、新たに学生を対象にしたイメージアップCMコンテストを実施するとともに、これら事業を活用した情報発信を行いました。			

施 策 計 画

事業名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
アクションプログラム：ホームタウンスポーツの振興					
○ ホームタウンスポーツの推進 トップチーム・トップアスリートなどの団体・個人をホームタウンスポーツ推進パートナーに認定するとともに、スポーツによる川崎のアピール・魅力づくりに協働で取り組みます。	ホームタウンスポーツ推進パートナー制度の創設、ふれあい教室の開催	ホームタウンスポーツ推進パートナーと連携した取組の推進・拡充			
実施結果	進捗状況区分 1	7団体1個人のホームタウンスポーツ推進パートナーと連携し、「小学生ふれあいスポーツ教室」等を開催するとともに、ホームゲームへの市民招待を実施したほか、ホームタウン推進パートナーの紹介ビデオを製作し、川崎駅アゼリアビジョンやホームゲーム会場で上映しました。			
○ Jリーグクラブの支援 川崎フロンターレの支援と応援を通して、市民の連帯感を深めるとともに、スポーツ振興・青少年の健全育成などを進めます。	(後援会会員数) 11,240人	順次拡大			
実施結果	進捗状況区分 1	市制記念日に近い川崎フロンターレホームゲームを市制記念試合と位置づけ、市民招待を実施しました。そして、さまざまな支援事業を実施した結果、川崎フロンターレ後援会会員数は2007年度に2004年度と比べて5,446人増え、16,686人となりました。			
○ アメリカンフットボールワールドカップの開催 ワールドカップの成功に向け、全市的な大会機運の盛り上げ、試合会場の整備、大会運営の支援を行います。また、大会を活用した川崎のイメージアップ、スポーツを通じた活力あるまちづくりを推進します。			アメリカンフットボールワールドカップ開催に向け、支援委員会を設立	アメリカンフットボールワールドカップ開催	
実施結果	進捗状況区分 1	2007年のワールドカップの開催に際し、150を超える団体が構成された支援委員会と連携しながら、全市を挙げて大会の成功に向けた支援を行いました。			
アクションプログラム：多摩川の魅力を育てる取組					
○ 多摩川にかかる全体計画の策定 桜並木の復活事業、市民活動拠点、サイクリングロードの位置づけ、駐車場、トイレ、水飲み場のあり方など多摩川に関する総合的な施策を展開するための全体計画を策定します。		基礎調査	計画策定		
実施結果	進捗状況区分 1	多摩川に関連する施策を総合的に展開するための「川崎市多摩川プラン」を策定し、重点エリアにおける再整備を進めたほか、プランの進行管理と評価等を行うための組織づくりを行いました。			

※進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ 多摩川景観形成の推進 多摩川の景観形成ガイドラインを策定し、それに基づきデザイン誘導を行うなど、多摩川と周辺市街地を含めた景観施策を推進します。		景観調査	多摩川景観形成ガイドラインの策定	ガイドラインを活用した景観デザイン誘導等	→
実施結果	進捗状況区分 6	当初の目標に明記した期日より遅れましたが、市民や沿川企業の意見を取り入れた「多摩川景観形成ガイドライン」を策定することができました。その後、ガイドラインの運用方針や建築行為等の適切な誘導について検討し、ガイドラインを公表するとともに、その宣伝及び周知を行いました。 [変更後の目標] 2007年度 多摩川景観形成ガイドラインの策定及びガイドラインを活用した景観デザイン誘導等			
○ 多摩川における桜並木の復活 国のスーパー堤防事業等にあわせて、桜の植樹事業を展開します。	(桜の植樹) 稲田堤、宿河原、等々力、大師地区	調 査	大師河原地区	幸区船着場周辺	等々力緑地等
実施結果	進捗状況区分 6	桜の植樹が可能な区域や整備手法の調査を実施し、平成17年度に大師河原地区において先行して一部植樹を実施したこと、等々力地区において国の本堤工事が先行して実施されたことを踏まえ、等々力地区において桜の植樹を実施しました。また、幸区戸手4丁目のスーパー堤防事業実施箇所については、民間事業者による開発の中で桜の植樹方針が決定され、殿町地区スーパー堤防事業に合わせた並木については、関係団体との意見交換を進めました。さらに、幸区船着場周辺地区では桜などの植栽工事を含む公園工事を実施しました。 [変更後の目標] 2006年度 等々力地区			
○ 多摩川エコミュージアムプランの推進 市民の情報の受発信や活動拠点であるニケ領せせらぎ館を中心に、展示活動やイベントの実施など多摩川エコミュージアムプランの趣旨にそった市民の諸活動を支援します。	ニケ領せせらぎ館を中心とした市民活動支援	継続実施			→
実施結果	進捗状況区分 1	市政だよりや「環境情報」の広報紙をはじめ、「多摩川リバーサイド駅伝大会」でのパネル展や市民活動団体「多摩川流域ネットワーク」と連携したメールマガジン発信など、さまざまな媒体を活用して多摩川の魅力を発信しました。 また、「かわさき多摩川博」や多摩川プランの「リーディングプロジェクト」の事業推進にあたり、関係市民団体と協働し、より多くの市民に多摩川の魅力を紹介することを目的とした各事業を実施しました。			
○ 水防センターの整備と水辺の楽校3校目の設立 大師河原水防センターの整備を行うとともに、平常時には多摩川における市民の活動拠点としての活用を図り、水辺の楽校3校目の設立をめざします。	水辺の楽校 かわさきとどろきの活動支援	大師河原水防センターの設計	大師河原水防センターの整備	水辺の楽校3校目の設立準備	水辺の楽校3校目の設立
実施結果	進捗状況区分 1	大師河原水防センターの整備については、工事施工中予期せぬ障害物が発見されたことにより工法の変更を行ったため、完成が遅れましたが、2007年8月31日に完成し、運営委員会による開館を2008年1月から行い、併せて、管理協定及び覚書の早期締結のため、京浜河川事務所及び市関係部署と協議・調整を図りました。また、水辺の楽校3校目の設立に向け、運営委員会において、環境学習等の実施に向けた企画等を協働で行いました。			
○ 環境学習の実施 多摩川で水とふれあう体験型学習を推進します。	夏休み多摩川教室などの開催	開 催			→
実施結果	進捗状況区分 1	「水環境セミナー」（2007年度からは環境セミナーに変更）、「環境科学教室」、「オープンラボ」などの主催事業をはじめ、「夏休み多摩川教室」の共催、小学校の総合学習や市民等の環境学習支援等82件の事業を実施しました。			

施 策 計 画

事 業 名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ 多摩川を活用したスポーツ大会の実施 多摩川ランフェスタ(多摩川ハーフマラソン・リバーサイド駅伝)、カヌー教室など、市民が参加し多摩川に親しめる施策を推進します。	多摩川ランフェスタ、カヌー教室を実施	継続実施			
実施結果	進捗状況区分 1	「多摩川ハーフマラソン」を毎年11月に、「多摩川リバーサイド駅伝」を毎年3月に、「多摩川カヌー教室」を毎年9月にそれぞれ継続して開催しました。(2007年度の「多摩川カヌー教室」は台風による増水のため中止しました。)			
○ 多摩川アクセス拠点の整備 国のスーパー堤防事業と連携し、市街地から多摩川へのアクセス向上の検討を進めます。	実施に向けた検討・調整	御幸公園、等々力緑地などで国と連携し、調査・検討			順次実施
実施結果	進捗状況区分 1	登戸駅南北自由通路から多摩川側への立体横断施設を整備しました。また、京浜河川事務所をはじめとする関係機関と協議し、JR登戸駅北口を多摩川口としたほか、幸区戸手4丁目地区における多摩川沿いの散策路(河川管理用通路)の開通や御幸公園におけるスーパー堤防事業について工程などの調整を図りました。			
○ 多摩川緑地等の整備・維持管理 運動施設・駐車場・トイレ・水飲み場・サイクリングロードなどの整備や維持管理による利用環境の向上を図ります。	占有面積73ha 施設数51箇所 駐車場の有料化に向けた取組	施設の整備・維持管理 駐車場の有料化	維持管理水準の向上		
実施結果	進捗状況区分 1	「宇奈根駐車場」、「瀬田駐車場」の2か所について有料化を実施しました。また、環境美化・環境整備に向けて、バーベキュー利用によるごみの散乱防止のため、収集回数の増加と効果的なパトロール指導を行うとともに、サイクリング・マラソンコースなどの運動施設等において、草刈、剪定等を適切に行うことにより、管理水準の向上を図りました。また、アメニティ施設の充実を図るため、簡易水洗トイレを設置しました。			
○ 幸区船着場周辺の整備 幸区船着場周辺に市民の憩える多摩川の拠点の一つとして、公園機能整備します。		調 査	設 計	用地取得及び整備	
実施結果	進捗状況区分 6	幸区船着場周辺の現況調査を実施し、眺望公園として整備する方針に基づき、関係機関と連携し、市民参加のワークショップを3回開催しました。その中で、市民意見の集約に努め、基本計画図の作成を行い、2007年度に公園(「多摩川見晴らし公園」)を整備しました。また、維持管理業務を適宜実施しました。 [変更後の目標] 2006年度 市民意見を取り入れた設計			
○ 多摩川ネットワークの構築(連絡協議会の設立) 現在、多摩川を中心に活動している各種団体や多摩川を利用する企業等を交えて、多摩川の活用に向けて協議会を設立します。		設立に向けた取組	協議会の設立	運 営	
実施結果	進捗状況区分 6	「かわさき多摩川博」をはじめとした各事業実施にあたり、既存の組織である「多摩川流域懇談会」等の組織を通じ、情報発信及び提供を行うとともに、企業との連携を図るため、国が設けている「多摩川流域懇談会」の企業部会の立ち上げについて、国とともに呼びかけを行いました。また、連絡協議会の設立を想定していましたが、「多摩川流域協議会」等の既存組織を有効に活用することにより、川崎市独自の協議会設立を行うよりも、より多くの情報発信や連携を図ることができました。 [変更後の目標] 2006年度 既存組織を活用した情報発信 / 2007年度 既存組織を活用した情報発信			

※進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。